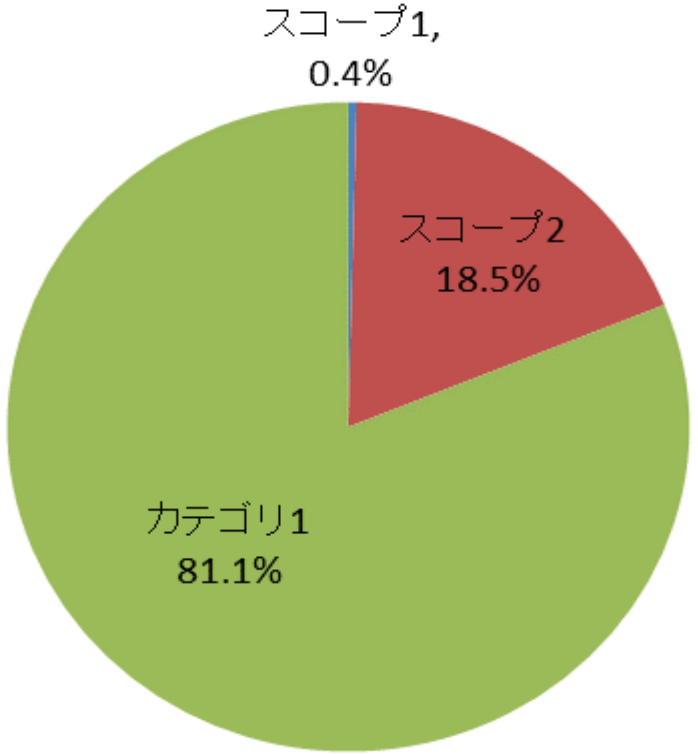


# 株式会社和泉

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"><li>● 業種：製造業</li><li>● 事業概要：ポリエチレン製気泡緩衝材「エアセルマット」製造加工販売。その他梱包製品販売、研磨用製品販売。</li></ul>
2.削減目標案	<p>&lt;Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み&gt; 2030年までに2019年比でCO2排出量46.2%削減 ガソリン車からHV車やEV車への切り替え・照明のLED化</p> <p>&lt;再エネ100%の目標について&gt; 2050年までに再エネ100%達成</p> <p>&lt;Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み&gt; サプライヤーとの連携により、軽量化添加剤やバイオマスプラスチック製品の販売・拡大に取り組み、石油由来ポリエチレンの使用比率の削減を進める。</p>

# 株式会社和泉

項目	内容									
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Scope 1・2・3の排出量の状況</li> </ul>  <table border="1"> <caption>GHG Emissions Distribution</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カテゴリ1</td> <td>81.1%</td> </tr> <tr> <td>スコープ2</td> <td>18.5%</td> </tr> <tr> <td>スコープ1</td> <td>0.4%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	カテゴリ1	81.1%	スコープ2	18.5%	スコープ1	0.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE1 : [tCO2] (任意)</li> <li>● SCOPE2 : [tCO2] (任意)</li> <li>● SCOPE3 : [tCO2] (任意)                          目標の対象セクター :</li> </ul>
Category	Percentage									
カテゴリ1	81.1%									
スコープ2	18.5%									
スコープ1	0.4%									

# 株式会社和泉

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"><li>● 将来的に原材料調達に重大な変化が生じる可能性が懸念される。</li><li>● 当社の主要顧客はESGに積極的な為、軽量化製品やバイオマス製品の需要が高まると想定される。</li><li>● 自社の軽量化製品やバイオマス製品の普及が促進されることで、率先して自社が対策に取り組むことによる外部企業評価の向上が期待される。</li></ul>
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"><li>● 自社の経営の中で気候変動のリスクと機会を位置づけるため、中長期CO2削減目標の策定が顧客からの削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスを拡大することを期待する。</li></ul>

# 株式会社和泉

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"><li>● 社内関係担当者と打ち合わせを行い、現状のCO2排出量の把握を行い共有した。 温暖化のリスクと機会を検討したことで、会社的に目標の必要性を共有できた。</li></ul>
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● Scope 1、2の削減において、予算を組んで優先順位を決めて取り組んでいく必要がある。</li><li>● Scope 3のカテゴリ1の削減目標の達成のために、サプライヤーとの協働と進捗を管理するためのデータの収集が課題。</li></ul>